

第64回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年11月13日（金）10:30～11:40

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 遠藤委員長代理、依田委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
坂田政策課長
原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀
動力炉開発課 森口課長、山本
吉備専門委員

4. 議 題

- （1）第2回高速増殖炉に関する日仏専門家会合について
- （2）原子力委員会専門委員の任命について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 第2回高速増殖炉に関する日仏専門家会合について
- 資料2 原子力委員会専門委員の任命について（案）
- 資料3 第63回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）第2回高速増殖炉に関する日仏専門家会合について

標記の件について、事務局より資料1に基づき説明があった。これに対し、原子力を推し進めている仏国でも最近は、原子力に対して否定的な動きしか情報が入ってこない。我が国でも同じだが、本専門家会合のような前向きな動きも国民に伝えることができるようきちんとした情報を発信するシステムを構築しなければならない。

との委員の意見及び質疑応答があった。

- （2）遠藤委員の神戸出張報告について

遠藤委員より、神戸において開催された、太平洋に位置する諸国の首脳クラスとの会談での、原子力等の情報・意見交換について紹介があった。同委員より、各国首脳は、概して原子力に対して悪い印象を持っており、他方、太陽エネルギーに期待していたが、発電単価が高いことが分かり驚いていた。各国首脳とも島国ということもあり、温暖化問題には関心を示した。また各国とも、事務局から原子力に関する情報が十分首脳クラスにまで上がってい

ない印象を持ったとの報告が行われた。これに対して

- ・原子力委員の出張報告については、正規の委員派遣であればなおさら、事務局からの報告にとどまらず委員自らが主体的な立場で所感を述べる時間を十分に確保するべき。また、委員会の議事運営の仕方については事前に事務局が委員と十分に御相談し、緊密な意思疎通を図るべき。
- ・原子力委員には、常勤・非常勤の別なく対等の発言権と責務が与えられており、肩書や立場を越えて、自らの見識に基づいて調査審議に参画することが必要。
- ・日本では太陽光発電の発電単価は高いが、送電網のない島国では太陽光発電のコストは他の電源に比べて必ずしも高くない。

との委員の意見があった。これに対して事務局より、委員会の議事運営について、ご指摘の点を踏まえ改善を図っていきたい旨の発言があった。

(3) 原子力委員会専門委員の任命について

標記の件については、人事案件であることから非公開で審議することとした上で、事務局より資料3に基づき説明があり、了承された。